



いきいき健康術 第126回

町立病院・診療所の医師や専門職員が
健康情報をお届けします。

『長引く咳にはご注意ください ～忘れてはいけない結核～』

内科医師 よこい だいすけ 横井大祐 医師

毎週木曜日午前の内科外来担当
京都府立医科大学附属北部医療センター総合診療科

現代もはびこる世界3大感染症の一つ

今シーズンの寒さもピークを迎え、風邪で来院される方も多くなっております。風邪は後半になると咳が中心となり、多くが2週間程度で収まってきます。もし、それ以上に長引く場合は、肺炎や副鼻腔炎、気管支喘息といった別の病気になっていることもあるので、診察では症状の経過を聞きながら病気の鑑別を進めます。そして、その中でも特に気をつけなければいけないのが“結核”です。

結核といえば“昔の病気”と思われる方もいるでしょう。結核で若くしてなくなられた有名人(正岡子規や石川啄木)を思い出される方もあると思います。

しかし、結核は決して過去の病気ではありません。現在でも日本だけで年間2,000人近く、世界で140万人が亡くなっており、結核は世界3大感染症の一つとなっています。日本は世界的には結核の中まん延国となっており、欧米先進国と比べるとまだまだその対策が必要と言われているのです。

風邪が長引いているような症状

結核は、咳や痰、微熱、身体のだるさ、体重減少といった「風邪が長引いているのかな?」と思うような症状で、これが特徴的という症状はありません。従って、医療機関でのレントゲンや喀痰かくたんの検査によって初めて診断することができます。結核は空気感染によって感染しますので、診断が遅れた分だけ周囲の人にもリスクが生じます。

運悪くかかってしまっても治療を受けることでほぼ治ります。治療方法は3～4種類の抗結核薬を一定期間服用することです。しかし、排菌量に応じて一時的に病院での隔離治療が必要となることがあります。抗結核薬は間違った使用をすると必ず耐性ができてしまうので、服薬管理に関しては保健師のサポートを受けることもできます。

まだまだ寒さが続きます。基本的な免疫力は十分な栄養、水分摂取、睡眠、規則的な生活で養われますが、困ったときは私たち医師が力になります。